



TITLE:

統計的計數

AUTHOR(S):

岡崎, 文規

CITATION:

岡崎, 文規. 統計的計數. 經濟論叢 1924, 19(3): 463-466

ISSUE DATE:

1924-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128197>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 三 號 第 十 九 卷

大正三十三年九月一日發行

論 叢

世界の貨幣交通……………法學士 作田 莊一

フィアカントの社會學論……………文學博士 米田庄太郎

海運會社の保護と海運同盟の監督 法學士 小島昌太郎

時 論

奢侈課税としての關稅……………法學博士 神戸 正雄

說 苑

宗教と社會主義との關係……………法學博士 財部 靜治

獨逸の國內植民事業……………法學博士 河田 嗣郎

雜 錄

漁船の遭難に就て……………經濟學士 蛭川 虎三

爲替の逆調による輸出増加に就て……………經濟學士 小川福太郎

統計的計數……………經濟學士 岡崎 文規

統計的計數

岡崎 文規

この小篇は Žižek の Fünf Hauptprobleme der statistischen Methodenlehre 1922 § 中 § Die statistischen Zahlen und die statistischen Begriffe の所論を骨子として草せるものである。

統計的研究にあつては、其の對象が如何なる種類の現象であらうとも、數字と無關係に之を成し遂げる事は不可能である。統計的研究が、例へば人口に關するものである場合には、其の目的とする處は、人口の主要なる群團(男女別、年齢別、職業別等)か如何にして構成されてゐるかを數字を以つて説明しようとするにある。ま

た賃銀に關する統計的研究に於ては、其の目的とする處は、平均賃銀或は職業別平均賃銀を數字に依つて説明しようとするにある。乍併、それ等の數字が只單に現象を、恰も寫眞に撮るが如く、克明に模寫すると言ふのではなくして、現象の本質或は其の生命の躍動を視はしむるに足るものでなければならぬ限りでは、それ等の數字は何れも統計的研究上の目的に従つて一々吟味され、選擇され、且つ加工された後に成つたものでなければならぬ。斯くの如き數字を普通の數字と區別して統計的計數と指稱する所以はこゝにある。

私はこの統計的計數を作出する爲めには、如何なる研究方法論上の手續を経なければならぬかを左に説明しよう。

統計的研究に於て、上に述べた意味の現象の本質を捕捉する爲めには、先づ集團現象を企畫的に大量觀察する事を必要とする。大量觀察の結果は、大數の法則に基いてゐるものであるもので、それによつて集團現象に於ける一般的にし

て、永續的な要因即ち其の本質は初めて認識し得る事となるからである。そして大量觀察を試みる際には、集團現象を形成してゐる處の要素を捕へ、其の特徴を觀察するのである。一つの集團と言ふものは同一の特徴を持つてゐるものゝ集りである事は言ふ迄もない。人口を例に引いて説明すれば、人口の構成要素は各個の個人であり、其の特徴は性別に、年齢別に或は職業別等に分類して數へる事が出来る。男子の集團と言ふのは性別による男性の集團であり、教師の集團と言ふのは職業別による教師の集團である。大量觀察をするには二重の手續が必要であつて、第一段では集團現象を構成してゐる要素を個々別々に觀察し、之を蒐集するのである、即ち人口に於ける男女別を觀察せんとする場合には、各個の個人に就いて其の性別を觀察し、兩性の如き不詳の者を排除して、個人を蒐集するのである。第二段では蒐集された材料の特徴を觀察し、同一の集團に屬すると思はれるもののみを集め、そして各集團に於ける特徴を表示するのである、即ち再び前の例に就いて言

へば、蒐集された人口を男女の性に從つて分類し、其の特徴に應じて男性及び女性の群團を作るのである。斯くの如く大量觀察によつて得たる結果は、それ自體に於て一つの價值を持つてゐる、例へば性別出生率、死亡率、死亡に對する出生の比率の如き、或は平均賃銀、職業別平均賃銀の如き、何れも多數の法則に從つて、各個の群團に於ける一般的にして、永續的な影響、換言すれば各個の集團現象に於ける本質を表示してゐるものと見る事が出来るからである。乍併、例へて言へば平均壽命は集團現象の本質を言ひ表はしたものであつて、それが集團を形成してゐる各個の要素に對しても全て妥當であると言ふのではない。故に斯くの如き統計的數字は常に抽象的の性質を持つてゐるものである事が知られる。

統計的研究は一つの現象を直ちに全體として捕捉し説明する事は出来ないし、さうしようと企てるものでもない、即ち統計的研究に於ては一つの現象を其の要素に分拆し、そしてこの要素を組立て、一つの意象を創るのである。その

意象は經驗的實在とは一致しないが、しかしこれは正に觀察せんとする現象の本質的なもの、表現に外ならないのである。故に統計的研究に於て、先づ考へなければならぬ問題は、統計的材料を蒐集するに際して、集團現象を如何なる要素に分拆しなければならぬかと言ふ事、或は如何なる要素を數へる可きかと言ふ事である、即ち蒐集單位(Erhebungseinheit)と言ふものを確定して置かなければならないのである。殊に統計的材料を多數に蒐集する場合には、蒐集單位は一層嚴格に定義して置く事が肝要である、若しこの場合に蒐集單位の概念が明確にされてゐなかつたならば、蒐集された材料が極めて不統一のものとなり、それを統計的觀察に利用する事が不可能となるからである。研究者が自ら統計的材料を蒐集する場合には、蒐集單位は研究者の希望や意欲に基いて決定されるものであるが、行政官廳などで作られた材料を利用する場合には、蒐集單位の決定は當該官廳の規定に支配せられるのである。

次には蒐集特徴(Erhebungsmerkmale)に關す

る概念が、蒐集單位の場合に於けると同様に、明確に決定されねばならない、例へば職業調査をなす場合に、蒐集された各要素の職業に就いて、本業とは如何なるものである、副業とは如何なるものであるかを明確に決定し、且つ又、訊問者が正確なる回答を期待するならば、回答者にも本業並に副業に關するこの概念を十分に了解させて置く事が肝要である。この場合にも既存の統計的材料を利用するならば——例へて言へば所得統計に於て、所得税高を基準にして研究する場合には、蒐集特徴は所得税法の規定に従つて決定される事となるのである。

既に述べた處の蒐集單位及び蒐集特徴の問題に次いで問題となるのは、蒐集された統計的材料を加工して群團を作る場合に、群團(Gruppe)とは如何なるものであるかを正確に定義して置かねばならない事である。普通、場所的分類は行政的區分に從ひ、時間的分類は月又は年に從つて區分するのであるが、職業などの群類をやる場合に、如何なる職業と如何なる職業とは一群に集む可きかは正確に決定して置かなければ

ならないのである。群類する事によつて一つの群團が出来ると、そこで初めて統計的計數が完成し、それによつて統計的説明を與へる事が出来る。それには凡そ三つの場合があつて、第一には、性別出産によつて男兒の出産數及び女兒の出産數が知らるゝと同時に、全體としての出産數をも知る事が出来るが如く、群類する事によつて各群團を説明する事が出来るが、それを合計する事によつて全體を説明する事も可能である。第二には、性別職業數を比較する事によつて、男女間の有職業者の比率を知る事が出来るが如く、各群團間の比率を説明する事が出来るのである。第三にはそして最後には、總賃銀を總労働者數で除して得たる商は平均賃銀である如く、斯くの如き方法で平均値を知る事も出来るのである。

統計的研究に於ては何れも、蒐集單位、蒐集特徴及び群類に關する正確なる概念に從ひ、且つこの群團の持つてゐる性質を明らかにする事によつて、統計的計數が理論上初めて正確なる意義を持ち來たす事となるのである。